

高等学校 令和7年度		教科	公民	科目	公共
教科：公民	科目：公共	単位数：2	単位		
対象学年組：第1学年 A組～ B組					
教科担当者：(A組：谷口修太 (B組：谷口修太 (組：) (組：) (組：) (組：)					
使用教科書：(数研出版 高等学校公共					
教科 公民	の目標：				

科目 公共		の目標：
【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
・現代の諸課題を捉え考察し、選択・判断するための手掛かりとなる概念や理論について、理解する ・諸資料から、倫理的な視点などとして活動するための必要となる情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。	・現実社会の諸課題の解決に向けて、手掛かりとなる考え方や公共の空間における基本的原理を活用して、事実を基に多面的・多角的に考察する。 ・公正に判断する力や合意形成や社会参画を視野に入れながら構想した内容を議論する力を養う。	・よりよい社会の実現を視野に、現代の諸課題を主体的に解決しようとする態度を養う。 ・現代社会に生きる人間としての在り方や公共の空間に生き国を築く担い手を担う公民として自覚を養い、その平和と繁栄を図ることや、各国が相互に主権を尊重し、各国民が協力し合う大切さについての自覚を深める。

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価基準	知	思	態	配当 時数
1 学 期	A 単元 巻頭特集 公共的な空間をつくる私たち 第1章 公共的な空間における人間としてのあり方生き方 第2章 公共的な空間における基本原理 ～平等権・自由権 【知識及び技能】 青年期は自立や自立を図る重要な時期であるということを理解する。また、社会には様々な背景をもっている人々から成り立っていることを理解する。そうした考えや人々によって、人間の尊厳や平等、法の支配など公共的空間における基本原理について理解できる。 【思考力・判断力・表現力等】 社会に参画する自立した主体とは、孤独して生きるのではなく、様々な集団として生き、公共的な空間を存在であるということについて多面的・多角的に考察する。 倫理的価値の判断において、行為の結果である個人や社会全体の幸福を重視する考え方と、行為の動機となる公正などの義務を重視する考え方を活用し、自らも他者も共に納得できる解決方法を見いだすことに向け、思考実験など概念的な枠組みを用いて考察する活動を通して、人間としての在り方生き方を多面的・多角的に考察し、表現すること。 【学びに向かう力、人間性等】 青年期の課題を把握しながら社会の一員として様々な社会に属していることを認識し、民主政治や日本国憲法にはどのように様々な人々と関わりの中で利害を調整していくのかを主体的に研究する。	・指導事項 巻頭特集 1 大人ってどんな人？ 2 お互いを理解し尊重するために 3 誰もが生きやすい社会で 第1章 公共的な空間における人間としてのあり方生き方 第2章公共的な日本社会の原理 平等権・自由権 ・教材 教科書 ワークシート パワーポイント揭示資料 ・一人1台端末の活用 等	【知識・技能】 青年期は自立や自律をはかる重要な時期であるということを理解する。 人間の尊厳と平等、個人の尊重、民主主義、法の支配など公共的な空間における基本原理について理解できている。 日本国憲法の基本原理や保障されている権利が理解できる。 【思考・判断・表現】 自己形成の課題について考察することができる。 公共的な空間における人間としてのあり方生き方を考察するための選択・判断の手がかりが考察できている。 日本国憲法の基礎にある考え方に着目し、公共的な空間における基本原理との関連を考察することができる。 【主体的に学習に取り組む態度】 自らを成長させる人間としてのあり方生き方とはどのようなものか主体的に追究できている。 民主政治が自らの生活と関わっていることを理解し、民主社会に主体的に生きる人間のあり方について考えを深めている。 日本国憲法が保障されている権利が理解でき、自らの生き方と権利を結びつけることができる。	○	○	○	13
	定期考査			○	○		1
	B 単元 第2章 第2節 日本社会の基本原理 社会権・参政権・請求権～ 第3章 ルールをつくり守る私たち～ ～契約と消費者の権利 【知識及び技能】 人間の尊厳と平等、個人の尊重、民主主義、法の支配、自由・権利と責任・義務など、公共的な空間における基本原理について理解する。 法や規範の意義や役割を理解する。 【思考力・判断力・表現力等】 日本国憲法の基礎にある考え方に着目し、公共的な空間における基本原理との関係を考察する。 日常の買い物や銀行のクレジットカードなど、身近な契約の例を挙げられる。 【学びに向かう力、人間性等】 日本国憲法で保障されている権利を理解し、自らの生き方と権利を結び付ける。 身近な紛争状況を設定し、それを理解するためのルール作りを体験的に進める。	・第2章 第2節 日本社会の基本原理 社会権・参政権・請求権～ 第3章 ルールをつくり守る私たち ～契約と消費者の権利 ・教科書 ワークシート パワーポイント揭示資料 ・一人1台端末の活用 等	【知識・技能】 人間の尊厳と平等、個人の尊重、民主主義、法の支配、自由・権利と責任・義務など、公共的な空間における基本原理について理解できている。 法や規範の意義や役割を理解できている。 【思考・判断・表現】 日本国憲法の基礎にある考え方に着目し、公共的な空間における基本原理との関係を考察することができる。 日常の買い物や銀行のクレジットカードなど、身近な契約の例を挙げられている。 【主体的に学習に取り組む態度】 日本国憲法で保障されている権利を理解し、自らの生き方と権利を結び付けようとしている。 身近な紛争状況を設定し、それを理解するためのルール作りを体験的に進めている。	○	○	○	14
定期考査			○	○		1	

2 学 期	C單元 第3章 ルールをつくり守る私たち 第2節 司法参加の意義 第4章 政治に参加する私たち 【知識及び技能】 公正な裁判には司法権の独立が必要であり、国民の参加が大切であると理解する。 地方自治や選挙の仕組み、政党の役割を考察することによって具体的に民主政治を支える制度を理解する。 国際法の意義や国際紛争を解決する機関の役割を理解する。 国際連盟、国際連合の組織と役割を理解する。 冷戦の成立とその終結後の国際政治の流れを理解する。 国際社会の中で平和主義を掲げる日本の役割を理解する。 核軍拡から核軍縮の流れを理解する。 現代の世界の紛争や人権問題について理解する。 【思考力、判断力、表現力等】 裁判員制度がどのような目的で創設されたのか考察する。 裁判によって国民のどのような権利が守られているのか考察する。 選挙制度の違いによって政党制にも大きな違いが出ることを考察する。 自分が理想とする選挙制度を選択している。 集団的安全保障がなぜ有効なのか考察する。 国連の現状と課題について、考察する。 留学生や国際NGOと接し、国際化を身近に体験し、国際社会の諸問題を理解する。 国際問題について自分なりの意見を持ち、他者に説明する。 【学びに向かう力、人間性等】 模擬裁判などを通して、司法に関心を持ち、裁判員制度の意義をふまえて積極的に参画する自覚を持つ。 模擬投票などを通して、選挙に積極的に参加するなど主権者として自覚を持つ。 日々報道されている世界の国際紛争に関心を持つ。	第3章 ルールをつくり守る私たち 第2節 司法参加の意義 第4章 政治に参加する私たち 第1節：政治参加と民主政治の課題 第2節：国際政治の動向 ・教材 教科書 ワークシート パワーポイント提示資料 ・一人1台端末の活用 等	【知識・技能】 公正な裁判には司法権の独立が必要であり、国民の参加が大切であることが理解できている。 地方自治や選挙の仕組み、政党の役割を考察することによって具体的に民主政治を支える制度を理解できている。 国際法の意義や国際紛争を解決する機関の役割を理解できている。 冷戦の成立とその終結後の国際政治の流れを理解できている。 国際社会の中で平和主義を掲げる日本の役割を理解できている。 核軍拡から核軍縮の流れを理解できている。 現代の世界の紛争や人権問題について理解できている。 【思考・判断・表現】 裁判員制度がどのような目的で創設されたのか考察出来ている。 裁判によって国民のどのような権利が守られているのか考察できている。 【主体的に学習に取り組む態度】 模擬裁判などを通して、司法に関心を持ち、裁判員制度の意義をふまえて積極的に参画する自覚を持つことができている。 選挙制度の違いによって政党制にも大きな違いが出ることを考察できている。 自分が理想とする選挙制度を選択できている。 集団的安全保障がなぜ有効なのか考察できている。	○	○	○	14
				○	○	○	
	定期考査			○	○		1
	第4章 政治に参加する私たち 第3節 国際政治の課題と日本の役割 第5章 経済活動を行う私たち 第1節 経済のしくみと産業の変化 第2節：市場経済のしくみと金融 【知識及び技能】 国際社会の中で平和主義を掲げる日本の役割を理解する。 核軍拡から核軍縮の流れを理解する。 現代の世界の紛争や人権問題について理解する。 現代の企業果たしている役割を理解する。 中小企業や農業の果たしている役割と現状を理解する。 産業構造の変化と職業選択との関係や雇用・労働問題について理解する。 市場メカニズムを理解する。 各種経済指標を理解し、その指標の動向を読み解ける。 金融の仕組みを理解し、経済状況に応じて、適切な手段を提示する。 政府が経済に果たしている役割を理解する。 【思考力、判断力、表現力等】 国際問題について自分なりの意見を持ち、他者に説明する。 現代の企業倫理について考察する。 経済のサービス化が進展し、国民生活にどのような変化をもたらしたか考察する。 【学びに向かう力、人間性等】 それぞれの紛争の解決への筋道は何か提示する。 民族紛争や難民問題など国際政治問題について日常から関心を持つ。 留学生や国際NGOと接し、国際化を身近に体験し、国際社会の諸問題について主体的に研究する。 AIやITなどの先端技術が発展する中で、自分の進路や職業選択について考察する。 経済社会に主体的に生きる一員として、今後の日本経済の見通しをたてる。 商品の価格は、需給関係によって変動すると理解し、合理的な消費行動を取る。 日本経済についての課題を発見し、解決する見通しをもつ。 格差のある国際社会で、その克服のために自らがどのようなことができるか考え、実行しようという意欲を持てる。	・指導事項 第4章 政治に参加する私たち 第3節 国際政治の課題と日本の役割 第5章 経済活動を行う私たち 第1節 経済のしくみと産業の変化 第2節：市場経済のしくみと金融 ・教材 教科書 ワークシート 確認問題 パワーポイント提示資料 ・一人一台端末の活用 等	【知識及び技能】 国際社会の中で平和主義を掲げる日本の役割を理解できている。 核軍拡から核軍縮の流れを理解できている。 現代の世界の紛争や人権問題について理解できている。 市場メカニズムを理解できる。 各種経済指標を理解し、その指標の動向を読み解くことができる。 金融の仕組みを理解し、経済状況に応じて、適切な手段を提示できる。 政府が経済に果たしている役割を理解できる 【思考力、判断力、表現力等】 国際問題について自分なりの意見を持ち、他者に説明できている。 需給曲線を使って、どのような場面に価格が変動するか考察できる。 GDPが大きいと豊かさにつながるのか、自分なりに判断できる。 【学びに向かう力、人間性等】 それぞれの紛争の解決への筋道は何か提示できている。 民族紛争や難民問題など国際政治問題について日常から関心を持っている。 留学生や国際NGOと接し、国際化を身近に体験できている。 商品の価格は、需給関係によって変動すると理解し、合理的な消費行動を取る姿勢がみられる。 日本経済についての課題を発見し、解決する見通しを持とうとしている。	○	○	○	14
	定期考査			○	○		1

3 学 期	第5章 経済活動を行う私たち 第3節 財政と社会保障 課題探究編 持続可能な社会づくりの主体となる私たち 【知識及び技能】 社会保障について理解する。 貿易や外国為替相場について理解する。 発展途上国の現状を知り、貧困や飢餓などの原因や課題を理解する。 現代社会に生きる私たちの課題を指摘している。 現代社会の諸問題について、探求するための資料を収集・選択し、的確に分析する。 【思考力、判断力、表現力等】 自身の老後生活を予想し、租税と社会保障のバランスを考察する。 経済のグローバル化と相互依存の関係により、日本経済にどのような影響を及ぼすか考察する。 現代社会の諸問題の解決のため、事実を基に協働して考え、意見を出し合う。 現代社会の諸問題を多角的・多面的に考察し、その内容をレポートや口頭発表などによって的確に表現する。 【学びに向かう力、人間性等】 格差のある国際社会で、その克服のために自らがどのようなことができるか考え、実行しようという意欲を持てる。 さまざまな課題の中で、自己とのかかわりに注目して主体的に課題を選択し、探求している。 現代社会の特質から生じる価値の対立について、討論やディベートなど、さまざまな方法を活用して主体的に探究する。	・指導事項 第5章 経済活動を行う私たち 第3節 財政と社会保障 課題探究編 持続可能な社会づくりの主体となる私たち ・教材 教科書 ワークシート 確認問題 パワーポイント提示資料 ・一人一台端末の活用 等	【知識及び技能】 社会保障について理解できる。 貿易や外国為替相場について理解できる。 発展途上国の現状を知り、貧困や飢餓などの原因や課題を理解できる。 現代社会に生きる私たちの課題を指摘できる。 現代社会の諸問題について、探求するための資料を収集・選択し、的確に分析できる。 【思考力、判断力、表現力等】 自身の老後生活を予想し、租税と社会保障のバランスを考察できる。 経済のグローバル化と相互依存の関係により、日本経済にどのような影響を及ぼすか考察できる。 現代社会の諸問題の解決のため、事実を基に協働して考え、意見を出し合うことができる。 現代社会の諸問題を多角的・多面的に考察し、その内容をレポートや口頭発表などによって的確に表現できる。 【学びに向かう力、人間性等】 格差のある国際社会で、その克服のために自らがどのようなことができるか考え、実行しようという意欲を持持つことができる。 さまざまな課題の中で、自己とのかかわりに注目して主体的に課題を選択し、探求できている。 現代社会の特質から生じる価値の対立について、討論やディベートなど、さまざまな方法を活用して主体的に探究できている。	○	○	○	10
	定期考査			○	○		1
							合計 70